

医薬技術実用化総合研究事業(臨床研究推進研究事業)

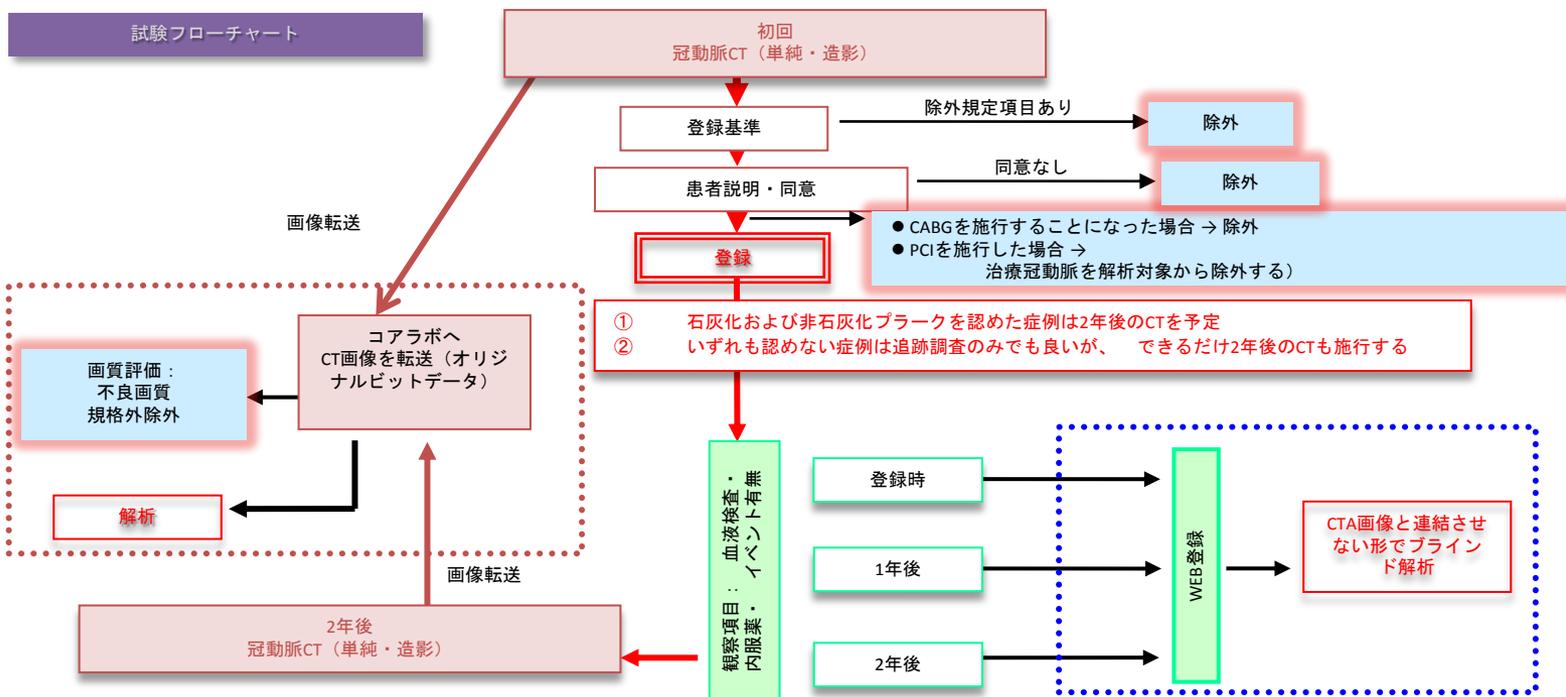
多列CTを用いた冠動脈プラークの性状判定と冠動脈イベント発症との関連についての多施設・前向き追跡調査

広島大学大学院医歯薬学総合研究科 循環器内科学 木原 康樹

(研究期間:平成20年度～平成22年度)

研究目的

- 1) MDCT冠動脈造影における石灰化および非石灰化プラーク形成と患者背景および心血管イベント発生との関係を明らかにする。
- 2) CT画像取得後2年間の観察期間におけるイベント発症例と冠動脈プラーク形成との関係を評価し、MDCT冠動脈造影によるプラーク進展・破裂の予測因子を明らかとする。
- 3) 非石灰化冠動脈プラークの性状変化をイベント発症時あるいは2年後に再検・解析して患者背景や治療介入との関係を解明する。
- 4) 平成24年度に追跡を終了し、平成25年度に国際学術誌に公表する。



研究成果

- CT冠動脈造影で検出される非狭窄性冠動脈粥腫病変を有する者はそうでない者に比べて心血管イベントが多い。
 - 肥満者は非狭窄性冠動脈粥腫病変の保有率が高く、しかも病態の進行が速い。
 - スタチンによる脂質介入や降圧剤による血圧管理は冠動脈粥腫病変の進行を抑制し、退縮を誘導する。
 - 糖尿病患者の冠動脈粥腫病変は治療の如何に拘わらず進行性である。
 - CT冠動脈造影による合併症発生頻度は少ない。
- 特定健診にて特定保健指導対象者と判断された未病者にはCT冠動脈造影による精査を施行するべきである。

今後の展望

CTによる非侵襲的冠動脈造影は循環器領域において目下急速に普及・拡大しており、その使用方法、対象、臨床意義などに関する多角的・客観的なデータが求められている。本研究は時代に要請に回答することが期待される。国際的にも同様な研究はなく、本邦発の臨床疫学データとなるものとする。平成22年末において登録患者数は2000名に迫ろうとしており、順調なレジストリーを継続している。Web上の患者登録システムも故障なく稼働している。これより平成24年末までに目標数相当の患者の登録を終え、観察結果について平成26年度には公表・論文化が期待される。